

胆石症の 薬物療法について

胆石症とは、胆汁という液体の中にある成分が固まって、小さい石（結石）ができる病気です。

胆汁の成分には、コレステロールや色素（ビリルビン）が含まれています。

結石の大きさや数は人によって違います。結石があると、胆汁の流れが悪くなったり、胆のうや胆管が炎症を起こしたりすることがあります。そのときに、激しいおなかの痛みや高熱などの症状が出ることがあります。

胆のう結石ではコレステロールが多く、胆管結石ではビリルビンが多いとされています。

胆汁は、コレステロールの消化・吸収を助ける働きがあり、肝臓で作られ胆のうという袋にたまり、食事のときに腸に送られます。近年では、食生活の欧米化や高齢化社会に伴い、胆石症の頻度は増加しています。コレステロールや脂質、糖分の多い食べ物の食べ過ぎには注意しましょう。アルコールやコーヒーは結石形成を抑制する作用があります。しかし、過度のアルコールやコーヒーは逆効果ですので注意しましょう。



胆石症に用いられる薬として、ウルソ®（ウルソデオキシコール酸）があげられます。この薬は、

薬剤部
畠中聰二郎
はたなか そういちろう



胆囊

胆汁酸という成分からできています。胆汁酸は、主にコレステロール結石を溶かすことができます。

激しいお腹の痛みの軽減を図るために鎮痛薬や鎮痙薬が使用されます。

ジクロフェナクナトリウム坐剤などの非ステロイド性抗炎症薬は、炎症を抑え、同時に痛みを和らげる働きがあります。また、鎮痙薬としてブスコパン®（ブチルスコポラミン）を服用します。

鎮痛薬や鎮痙薬は痛みがなくなければ服用する必要はありませんが、結石を溶かすお薬（ウルソ®）は効果が出るまで、最低でも半年ぐらいかかりますので、根気強く服用してください。



くす通信

第273号
2023年11月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

外科より

胆石症について

薬剤部より

胆石症の薬物療法について



「くす（樟）」の由来について

くす（樟）は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし（薬師）とは、医師のことを指し、くすしぶみ（薬師書）は医術に関する書物のことを言います。

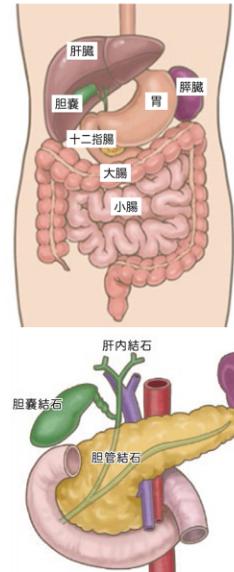
本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

胆石症について

外科医師
たかあき
東 孝 晓

胆石症について

胆石症とは、胆道に結石ができる病気の総称です。胆道の中でもどこに結石ができるかによって胆嚢結石、胆管結石、肝内結石に分けられます。胆石は肝臓で生成される消化酵素である胆汁に含まれる成分が結晶化したもので、胆汁を貯留している袋である胆嚢は結晶化しやすく、約80%は胆嚢結石として発見されます。



胆石は

胆石は成分によってコレステロール石と色素石(ビリルビンカルシウム石、黒色石)に分けられ、それぞれ原因が異なります。

コレステロール石は胆汁のコレステロール濃度が高くなることで発生し、色素石のうちビリルビンカルシウム石と呼ばれる胆石は胆汁の細菌感染が原因で発生します。黒色石ができる原因は不明です。

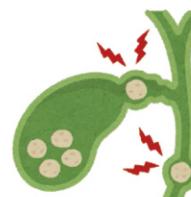
これらの胆石のうち、最も頻度が高いものはコレステロール石で肥満、中年女性、糖尿病患者、血中コレステロール値が高い、血縁者に胆石症患者がいる場合などにリスクが高くなることが知られています。

どんな症状?

胆石症の主な症状は右の肋骨の下辺りの痛み、みぞおちの痛み、右の背中の痛み、右肩の痛みで、食後に現れやすいのが特徴です。

また、黄疸や、ビリルビン尿と呼ばれる褐色～黒色の尿が出たりすることもあります。一方で、胆石症の2～3割は症状がほとんどられないこともあります。無症状胆石と呼ばれます。

また、胆嚢や胆管に炎症を起こすことがあります。炎症が起こると先ほど述べたお腹の症状も強くなり、高熱が出ることもあります。胆石による症状が出現した場合は速やかにかかりつけ医などに相談する必要があります。



治療法は?

胆石症で痛みなどの症状がみられる場合(胆嚢炎を生じている場合)は手術を行います。胆石症の手術では胆嚢ごと取り除く胆嚢摘出術が行われます。腹腔鏡下手術と開腹手術があり、全身麻酔下で行われます。体の負担が少ない腹腔鏡下手術が第一選択ですが、腹腔鏡下手術が難しい場合は開腹手術が行われます。

痛みがない無症状胆石の場合は治療を行わずに経過観察を行いますが、胆管の出口に詰まって胆管炎が生じている場合は、胃カメラを行い、胆管内の胆石を除去する治療が必要になります。

腹腔鏡での手術が問題なく終了すれば5、6日程度で退院ができます。



外科の紹介

外科では主に消化器領域(食道、胃、大腸、肝胆脾)の癌や乳がん、一般外科の疾患(胆石症、虫垂炎、ヘルニアなど)まで幅広く診療を行っています。

癌診療では手術療法の他に消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科などと連携を図り、内視鏡治療、化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っており、各患者さまに応じた適切な治療をご提案します。手術においては積極的に内視鏡外科手術を取り入れてあります。またロボット支援下手術も導入予定としており、低侵襲かつ根治的な治療法の提供に努めています。

種々の救急疾患における緊急手術においても24時間365日体制で対応しており、市内から県北まで多数の患者さまを受け入れております。

国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日～金曜日
- 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始(12月29日～翌年1月3日)
- 受付時間 8:15～11:00
- 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5
- TEL 096(353)6501(代表)
- FAX 096(325)2519
- H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※形成外科のみ受付は、水曜日以外の13:30～16:30となります。

※一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。